

第70回記念埼玉県美術展覧会 審査評

【第1部 日本画】

○総評

審査主任 やました 山下 くに 邦雄

第70回記念展は3年ぶりの開催となりましたが、一般会員の出品数は174点で69回展と同程度の出品数となり、安堵しました。

様々な作風にあふれ、画面の色数も豊富な作品がそろいました。どの作品も優劣を決めることが難しく、とても興味深い審査となりました。

ベテランの味わいある作品から、瑞々しく新鮮な高校生の次の世代を期待させる作品まで幅広く、テーマの扱い方も豊かで多様な表現力に感心しました。

また、水墨画の作品も見られ、日本画部全体のレベルと深みが増してきました。

次回展も日本画の表現技法の可能性を追求し、より多くの人に日本画に親しんでもらい、日本画界がさらに発展していくことを願ってやみません。

○知事賞

かげ 「影」 こやま 古山 ゆき 由樹

窓から見える木々と窓ガラスに映る木々を、ダブルのイメージで表現し、微妙な色彩や光と影を型押しや砂子を使って、画面に面白さと複雑さを出しています。

静かな時の流れを感じさせてくれます。

日本画として新しい感覚の作品が知事賞になりました。

○埼玉県議会議長賞

すぺーす 「Space」 あんどう 安藤 かつや 克也

建物の壁面のような古びた美しさに、マチエールの肌合いや箔を使用し、蛾なども止まらせて表現に工夫をしています。力強い色彩により作者の世界観が明確に打ち出され、観る人に新たな発見を与えてくれます。具象と抽象の相まった表現は、古来から受け継がれてきた伝統的技法と、これからの日本画の展望を期待させる作品として心に残りました。

○埼玉県教育委員会教育長賞

「めざめ」 なか 中 あきこ 明子

少女がめざめていく世界への思いと祈りの気持ちを一つの画面に組み合わせ、心の世界の広がりや瑞々しく表現していると思います。

胡粉と粒子の細かな絵の具を薄く塗り重ね、繊細な線で柔らかく表現された人物が色々な花々に囲まれ、可愛い小鳥も居る画面からは、少女への優しい深い愛情が感じられます。

○第70回記念賞

れすと こもり まさこ
「rest」 小森 正子

部屋の一隅に腰かけた青年の、音楽活動の合い間のひと時でしょうか。直線的な部屋の構成と人物の組み合わせにリズムがあり、都会的な無彩色の空間に対し、国旗やボールなどの一部には彩色が施され、画面を引きしめています。岩絵具の特性が活かされ、着衣の柄も印象的で、観る者の心に響きます。これからの成熟が大いに期待され、70回記念展にふさわしい心に残る作品です。

○埼玉県美術家協会賞

かぜ あんどう よしこ
「風をまとう」 安藤 美子

この作品の作者はシャツを着たときに、ふわりと風も一緒にまとったような気持ちになったのでしょう。その思いを精緻な筆運びにこだわらず、勢いにまかせてさわやかに思いのままに描いています。タイトルも素敵です。

ただ、紙の張り方が甘いと画面にヒビが入ることもありますので、注意が必要です。

○埼玉県美術家協会賞

はる さび いけだ みちか
「春と錆」 池田 倫佳

壊れそうな、はかない夢や希望が、自転車の前カゴに詰まった花びらに例えられているように感じます。

それらを自分の力でしっかりと掴み取りたいという前向きな意思を、描かれた人物の力強い手や表現に強く感じとれる作品です。

真正面から構図をとらえた、迫力のある作品となりました。

○時事通信社賞

せいじゃく うえき よしお
「静寂」 植木 祥雄

緑の池の周りに生い茂る木々と、池に浮かぶ落ち葉が画面に重厚感を与えています。

点描によって木々にも水面にも揺らぎを感じます。

石橋の重みも感じられ、全体に深みのある作品です。点描による色彩が、テーマを表現するのにふさわしい作品になりました。

○埼玉県美術家協会会長賞

くさむら はっとり まつ
「叢」 服部 麻津

初冬の庭先でしょうか。雑草の中に猫が遊んでいます。迷い猫と思われるその姿がよく描かれています。

白く雑草を描く中で、冬の情景がよく表現できており、その処理が実に上手く描かれています。また、かすかにジュースの空き缶が描かれている点が、画面構成に大変効果的です。

○高田誠記念賞

「出現」 しゅつげん なかや こゆき
中谷 小雪

夏祭りの一コマ、天狗像の万燈を担ぐ人、祭りに参加しているたくさんの人々、祭りのにぎやかさがよく表現されています。色を抑えているのも、多くの色を使うより祭りらしさが出ています。天狗像の万燈の飾りも整理されています。大勢の人々の熱気が感じられます。